

広告

企画・制作: 読売新聞社広告局

福岡大学 医学部長・理事
基盤研究機関再生医学研究所
医学部 再生・移植医学講座・応用再生医療開発講座
福岡大学病院 再生医療センター

1型糖尿病に脾島移植

（すいとうじんにひじまうせき）

（すいとうじんにひじまうせき）

医療技術の目覚ましい進歩により、治療が難しい臓器不全になつても、移植によって命が救えたり、社会生活に復帰したりすることが可能になつてきました。しかし、臓器移植は体へのダメージなどの課題があるため、その代わりに体に優しい「再生医療」が注目を集めています。福岡大学病院再生医療センター教授の小玉正太・医学部長に話を伺いました。

自己の機能を回復再生

—「再生医学」や「再生医療」について基本的なことを教えてください。

川の石を裏側にひっくり返すと、プラナリアという5ミリくらいの原生生物を見つけることができます。それを例えれば三つに分けて切ると、それぞれに目玉や頭ができる、三匹のプラナリアが再生されます。脳神経系の発達にスイッチを入れるので、信号のオンとオフが体の中で行われて細胞の分化が進みます。失ったものを補填したり、そのような遺伝子のシステムを学問として教えるのが「再生医学」。その再生医学に基づいた治療を現場で行うのが「再生医療」です。脾島移植や、閉塞性動脈硬化症の治療、副腎再生、乳房再建、不妊症なども再生治療の対象となります。

—再生医療の中の「細胞治療」とはどのようなものでしょうか?

細胞治療は再生医療の大部分を占めています。心筋だら心筋細胞を再生させることで心筋梗塞を治すなど、細胞を補填することによって治療を行います。プログラミングやリプログラミングなどの方法も治療に深く関わっています。ネズミは産まれる直前、手袋みたいに見える手の先が3日間くらいて指の間にヒレがなくなるから

です。リプログラミングとは、通常幹細胞から順番に末梢細胞へと分化していくますが、分化した細胞が幹細胞に戻ることを言います。

先祖返りするような情報で、初期化のできる遺伝子の組み合わせが行われた結果です。

課題や限界もあります。万能と言われるiPS細胞で脊椎損傷や加齢黄斑変成症などの治療が進んでいます。しかしながら、全ての情報を再現するために1型糖尿病がだたらインスリンを出すβ細胞であります。しかし、脾島の中には約100万个の脾島があり、脾島にはα細胞、β細胞などがあり、β細胞は血糖が上昇した場合に低下させるインスリンを分泌します。

脾島移植は脾島のみを取り出して注入します。臓器移植と同じようにドナーから提供いただいた

脾島から脾島だけを取り出し、局所麻酔下で肝臓の門脈に通します。

簡単にできて、脾島移植と違つて

—インスリン依存糖尿病(1型)に対する治療の脾島移植と脾島移植の違いについて教えてください。

脾臓はインスリンなどを分泌して血糖調整を行う内分泌細胞とアミラーゼなどの消化酵素を分泌して消化吸収を助ける外分泌細胞という全く働きが異なる細胞群(組織)でできている特異な臓器です。

脾島移植は脳死や心停止のドナーから提供されるもので、移植手術の中でも非常に難易度が高く、手術による合併症や移植後の拒絶反応などのリスクを伴います。

臓器移植と異なり組織移植であるのが脾島移植です。脾島は直径



イラスト出典: 科本ひづみの医学教室(水谷出版)



福岡大学 医学部長・理事
基盤研究機関再生医学研究所
医学部 再生・移植医学講座・応用再生医療開発講座
福岡大学病院 再生医療センター

主任教授 小玉 正太先生

—インスリン依存糖尿病(1型)に対する治療の脾島移植と脾島移植の違いについて教えてください。

脾臓でインスリンを分泌している脾島細胞を肝臓の門脈に移植する治療です。

①生命を維持するためには注射によるインスリン治療が必要である方②専門医の治療努力によつても、血糖コントロールが困難な方③20～75歳の方などで、脾臓と脾島は移植の効果がほぼ同等と分かつて来たのをしました。

ただ、脾島移植は細胞組織移植は細胞組織移植ですが再生医療の法律に包括されません。再生医療等の安全性の確保

移植が必要なドナー情報は全国から集まり、移植チームが駆けつけ臓器搬送します。多くの医療従事者が連携して行いますので、例えば新型コロナウイルス感染症で止めてしまうと亡くなる方が出でますので、動きは止められません。

大学病院として社会的な責任を全うするためにこれら先端医療と重症新型コロナウイルス感染症対応のECMO(エクモ)治療は同時並行して行われています。

感染対策をしっかりと行つていますので、患者さんは必要な治療を安心して受けていただきたいと思

ます。再生医療等の法律に基づいて、脾島移植ができる施設のハードルが高く

なっていますので、

ハート病院では、患者さんは必要な治療を安心して受けていただきたいと思